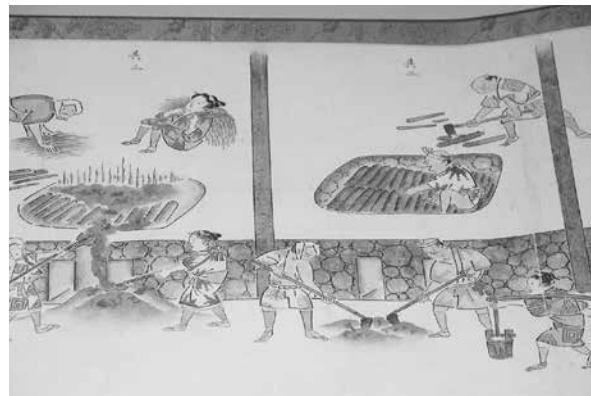




▲阿仁鉱山作業絵図

温故知新

Vol.4

阿仁鉱山と地域との関わり

阿仁鉱山は阿仁の小沢、真木沢、三枚、一ノ又、二ノ又、萱草の六ヶ銅山と、水無の向山金銀山などで構成されている。一般的に阿仁鉱山と呼ばれるが、複数の鉱山の総称なのである。

阿仁鉱山は14世紀初めに湯口内沢で砂金が発見され、続いて銀山の開

坑からはじまった阿仁の鉱業は、何度か秋田藩の直山（注1）になった。正徳2（1712）年、幕府は「正徳長崎新令」により金銀の海外流出阻止を図る。その代わり、貿易では銅使用が主流となり、阿仁銅は18世紀を通じて、幕府全体の御用銅総額の約4割を占めるようになった。享保年間（1716～1736）には、阿仁鉱山は住友家が開発した別子銅山（愛媛県）をしのぎ、日本一の銅山になった。

次第に阿仁鉱山の山勢が衰えを見せ始め、幕府は産出量の減少は、秋田藩の経営不足と考え、阿仁部の天領化（注2）を図る。だが、秋田藩にとって阿仁鉱山は重要な財源だったため、必死に対策に入る。まず、阿仁の銅は銀を多く含んでいたが、荒銅のまま出荷したため、大坂（大阪）の銅吹屋が莫大な利益を得ていることを知り、平賀源内らに銅の中に残った銀を絞り出す技術指導を受けたあと、大坂の大坂屋により安永3（1774）年に「銀絞り竿銅吹方」の許可を幕府から得て、真木沢銅山で試み、成功する。しかし、依然として製錬は大坂の銅吹屋に委託しており、利益率は低かったため、効率

的に製錬を行うため、安永4（1775）年に米代川と藤夢川が合流する籠山に「加護山製錬所（能代市二ツ井町）が設立された。

さて、七日市の「長岐家文書」にも阿仁鉱山に関する記述が残っている。長崎七左衛門が書き記した「歳代記」によると、「宝暦8（1758）年に鉱山方が新炭に使う山を指定した（略）板木沢および真木沢銅山に使うことを長い間申し付けている」とあり、七日市地区の山が銅山経営のために必要な炭木などを採取する場所に決められたことがわかる。また、寛政8（1796）年付の「た

きぎ山は七日市村の沢から（略）真木沢、板木沢の炭木山（注3）のため」との記録もあり、銅の製錬のための炭木などが七日市村から出されていたことがわかる。木炭は七日市の松沢や仙戸石沢、上小阿仁の南沢、新は大阿仁の打当沢や比立内沢など、鉱山から離れた場所から必要な木材を運んでいた。なぜならば、阿仁鉱山の発展により、鉱山周辺はすでに乱伐されたことから、遠方から運ぶしかなかった。阿仁銅の製錬に使う炭木の提供は、村々の大きな負担になっていた。

このように、阿仁鉱山は阿仁合だけでなく、広い地域の人々が鉱山を支えていたのである。

かつて鉱山があった裸山は、今では樹木が生い茂る山に戻り、在りし日の姿を静かに語っている。

永井高道

（注1）直山・・・藩が直接支配する鉱山のこと
（注2）天領・・・幕府が直接支配すること
（注3）炭木山・・・雑木や薪の伐採を指定した山のこと



▲阿仁鉱山の歴史を知ることができる阿仁伝承館・異人館



- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ

～地域で学び、活動する皆さんを応援します～

北秋田市教育委員会



学びの広場



「コムコムがにぎわいづくりの中心に」 ～市民ふれあいプラザにぎわいづくり委員会～

北秋田市民ふれあいプラザにぎわいづくり委員会が8月25日に開催され、高校生を含む11人に津谷市長から委嘱状が交付されました。

同委員会は、北秋田市民ふれあいプラザの運営の審議と同施設を中心としたにぎわいづくりを図ることを目的に平成29年度から設置されています。

委員からは、「コムコムの利用者数は秋田県の中でもトップの施設だと感じている」「これからはもっと子どもたちを巻き込めば、この街の集客につなが



▲にぎわいづくりについて話し合う委員

るのではないかと意見を話し合い、コムコムを中心とした周辺の活性化について話し合いました。

それぞれの思いを熱弁

～第42回少年の主張県大会県北地区予選大会～

「わたしの主張2020」の県北地区予選大会が9月3日に鷹巣中学校で行われ、事前審査で選ばれた12人が、自分の思いを熱弁しました。

この大会は、子どもたちが心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立することや、物事を論理的に考えて正しく伝え、理解してもらう力を身に付けることを目的に毎年開催されています。出場者が聴衆に思いを伝えようと抑揚をつけたり、手振りを交えて発表する姿が見られました。



▲自分の思いを発表する米山さん（鷹巣中3年）

今年は市内の中学校から1人が優秀賞に選ばれ、4人が優良賞に選ばれました。

チャレンジブースに新規出店！

～ボディケアサロン nico（ニコ）～

コムコムの中には、起業を目指す人たちのビジネスチャンスやステップアップとなる経験の場とするチャレンジブースが設けてあります。

新たに1つの出店が決まり、「ボディケアサロン nico（ニコ）」が営業を開始しました。働く女性やママ、妊婦の方々など、全ての女性が笑顔で生き生きと過ごせるよう、心身のトータルケアによって癒しの時間を過ごすことができます。

新しいサロンにぜひお立ち寄りください。



▲ボディケアサロン nico